

[令和6年度以降入学者]

医薬理工学環（博士前期課程） 三つのポリシー（プログラム別）

（プログラム名をクリックしてください。）

医薬理工学環-創薬・製剤工学プログラム

医薬理工学環-応用和漢医薬学プログラム

医薬理工学環-認知・情動脳科学プログラム

医薬理工学環-メディカルデザインプログラム

医薬理工学環 博士前期課程(創薬・製剤工学プログラム)の三つのポリシー 【修士(薬科学)】

大学院の目的 (大学院学則 第2条)	研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的
<p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>	<p>創薬・製剤の知識と技能を生かし、製薬企業の創薬部門における医薬品設計や製剤開発研究部門における製剤設計を担当できる研究者、専門的技術者を養成することを目的とする。</p>

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】 創薬・製剤工学プログラムでは、幅広い知識を基盤とする高い専門性、総合的な判断力と、人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、創薬・製剤関連領域の研究者・教育者・技術者として学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる人材を育成することを目的としている。 この目的に基づいて、原則2年以上在学して必要な研究指導を受け、「基盤的能力」、「専門的学識」、「倫理観」、「創造力」を身に付け、定められた教育課程で十分な学修成果を上げた者に修士(薬科学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 創薬・製剤工学プログラムでは、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる4つの能力を修得させるため、体系的な教育課程を編成する。 薬学、医学、理工学との協同体制を基盤とし、創薬・製剤工学を総合した特色ある教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】 2年間の講義・演習・実験実習によるカリキュラムを実施する。講義は、大学院共通科目、医薬理工学環共通科目を履修するほか、各分野が実施するものを、学生が主体的に選択できるものとする。演習と特別研究は、研究室等で実施する。</p>	<p>【入学者受入れの方針】 創薬・製剤工学プログラムでは、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に示す人材育成の目的に基づき、総合的な判断力を持った創造性豊かな研究者及び技術者を志し、創薬・製剤の基礎を学びたいという意欲を持つ者を受け入れる。 入学希望者に求める資質・能力は次のとおりである。</p> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 学部卒業見込みの者だけでなく、社会人等の多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また外国人留学生特別入試を実施する。</p> <p>一般入試 入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p> <p>外国人留学生特別入試 入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p>
【学修成果の到達指標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>基盤的能力</p> <p>【学修成果】 研究遂行に必要な創薬・製剤工学関連領域の幅広い学識と総合的な判断力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 講義科目の修了要件単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 創薬・製剤工学関連領域の幅広い知識の修得のために、基礎薬学、和漢医薬学、臨床薬学、臨床医学、化学・応用化学・生命工学分野分野の講義を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義形式により学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 4年制学部教育卒業レベルの薬学あるいは理工学の基礎知識及び語学力を身に付けている。 創薬・製剤工学関連領域の知識を修得したいという意欲を持っている。</p>
<p>専門的学識</p> <p>【学修成果】 創薬・製剤工学関連領域の発展に寄与する研究者・教育者・技術者として必要な専門知識、技術を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 演習及び創薬・製剤工学特別研究の修了要件単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 創薬・製剤工学関連領域の研究者・教育者・技術者として必要な専門知識、技術を修得するために、演習及び創薬・製剤特別研究を実施する。</p> <p>【学修方法】 演習では、各分野における最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。 創薬・製剤工学特別研究では、各分野における背景に基づいて設定された研究課題に取り組みながら、専門知識や技術について実践的に指導を受ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 プレゼンテーションや質疑応答を行い、その成果を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 専門知識、技術の修得のために必要な基礎知識、語学力、理解力及び論理的思考能力を身に付けている。</p>
<p>倫理観</p> <p>【学修成果】 研究倫理や関連する法令の規範意識及び人間尊重の精神を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 指定の研究倫理教育を修了していること。</p>	<p>【学修内容】 研究倫理の規範意識や人間尊重の精神を養うために、研究倫理教育を実施する。</p> <p>【学修方法】 研究倫理教育については、講義又はe-ラーニング形式により学修する。研究に関わる法令や各種申請の手続きについて、研究室で指導を受ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 研究倫理教育を受講した上で、法令・研究倫理の遵守に関する学位論文評価基準により評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 一般的な倫理観、道徳観を身に付けている。</p>
<p>創造力</p> <p>【学修成果】 専門知識、技術を統合、応用して創造性の高い研究を遂行し、創薬・製剤工学関連領域の諸課題を解決するための素養、及び研究成果やその価値を説明、議論できる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 修士の学位論文の審査及び試験に合格していること。</p>	<p>【学修内容】 創造性の高い研究を遂行するための素養及び研究価値を説明、議論できる能力の修得のために、創薬・製剤工学特別研究を実施し、その成果をまとめて修士の学位論文を作成するとともに、修士論文発表会にて発表を行う。</p> <p>【学修方法】 論文及び発表資料の作成法やプレゼンテーションの手法を研究室の教員から指導、添削を受け、学位論文を完成させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 修士論文発表会のプレゼンテーションや質疑応答、学位論文評価基準に基づく学位論文の審査及び試験により総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 創薬・製剤工学関連領域の研究課題に取り組み、それを解決して社会に貢献したいという意欲を持っている。</p>

医薬理工学環 博士前期課程(応用和漢医薬学プログラム)の三つのポリシー【修士(薬科学)】

大学院の目的 (大学院学則 第2条)

研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的

本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

幅広い知識を基盤とした和漢医薬学を応用できる専門性の高い知識と技術を受け、和漢医薬学研究に基づいた医薬品開発とレギュレーション、未病研究に基づいた健康・医療の創生などを行える薬科学関連領域の研究者・教育者・技術者、および審査官(行政官)など、和漢医薬を含めた伝統医薬からの創薬と人々の健康維持、並びに学術研究の進歩に貢献できる人材を育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】 応用和漢医薬学プログラムでは、教育研究上の目的に示した人材を育成することが社会から期待されている。そのような人材を育成するために、本プログラムでは、原則2年以上在学し、所定の課程を修め必要な単位を修得し、かつ研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び試験に合格し、「基盤的能力」、「専門的学識」、「倫理観」、「創造力」を身に付けた者に修士(薬科学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 応用和漢医薬学プログラムでは、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる4つの能力を修得させるため、体系的な教育課程を編成する。 薬学、医学、理工学との協同体制を基盤とし、和漢医薬学と理工学の融合教育によって特色ある教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】 2年間の講義・演習・実験実習によるカリキュラムを実施する。講義は、大学院共通科目、医薬理工学環共通科目を履修する他、各専門分野が実施するものを学生が主体的に選択できるものとする。演習と特別研究は、研究室等で実施する。</p>	<p>【入学者受入れの方針】 応用和漢医薬学プログラムでは、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に示す人材育成の目的に基づき、総合的な判断力を持った創造性豊かな研究者、教育者及び技術者を志し、応用和漢医薬学の基礎と実践を学びたいという意欲を持つ者を受け入れる。</p> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 学部卒業見込みの者だけでなく、社会人等の多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また外国人留学生特別入試を実施する。</p> <p>一般入試 入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書の内容により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p> <p>外国人留学生特別入試 入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書の内容により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p>
<p>【学修成果の到達指標】</p>	<p>【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】</p>	<p>【求める資質・能力】</p>
<p>基盤的能力</p> <p>【学修成果】 研究遂行に必要な応用和漢医薬学関連領域の幅広い学識と総合的な判断力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 講義科目の修了要件単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 応用和漢医薬学関連領域の幅広い知識の修得のために、和漢医薬学、臨床医学、化学・応用化学・生命工学分野の講義を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義形式により学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 4年制学部教育卒業レベルの薬学あるいは理工学の基礎知識及び語学力を身に付けている。 応用和漢医薬学関連領域の知識を修得したいという意欲を持っている。</p>
<p>専門的学識</p> <p>【学修成果】 応用和漢医薬学関連領域の発展に寄与する研究者・教育者・技術者として必要な専門知識、技術を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 演習及び応用和漢医薬学特別研究の修了要件単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 応用和漢医薬学関連領域の研究者・教育者・技術者として必要な専門知識、技術を修得するために、演習及び応用和漢医薬学特別研究を実施する。</p> <p>【学修方法】 演習科目では、各専門分野における最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。 応用和漢医薬学特別研究では、各分野における背景に基づいて設定された研究課題に取り組みながら、専門知識や技術について実践的に指導を受ける。 融合型・分野横断的教育を目的として、分野を横断した他の研究室での実験・実習指導や他分野の教員を副指導教員とするシステムを導入する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 プレゼンテーションや質疑応答を行い、その成果を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 専門知識、技術の修得のために必要な基礎知識、語学力、理解力及び論理的思考能力を身に付けている。</p>
<p>倫理観</p> <p>【学修成果】 研究倫理や関連する法令の規範意識及び人間尊重の精神を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 指定の研究倫理教育を修了していること。</p>	<p>【学修内容】 研究倫理の規範意識や人間尊重の精神を養うために、研究倫理教育を実施する。</p> <p>【学修方法】 研究倫理教育については、講義又はe-ラーニング形式により学修する。研究に関わる法令や各種申請の手続きについて、研究室で指導を受ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 研究倫理教育を受講した上で、法令・研究倫理の遵守に関する学位論文評価基準により評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 一般的な倫理観、道徳観を身に付けている。</p>
<p>創造力</p> <p>【学修成果】 専門知識、技術を統合、応用して創造性の高い研究を遂行し、応用和漢医薬学関連領域の諸課題を解決するための素養、及び研究成果やその価値を説明、議論できる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 修士の学位論文の審査及び試験に合格していること。</p>	<p>【学修内容】 創造性の高い研究を遂行するための素養及び研究価値を説明、議論できる能力の修得のために、応用和漢医薬学特別研究を実施し、その成果をまとめて修士の学位論文を作成するとともに、修士論文発表会にて発表を行う。</p> <p>【学修方法】 論文及び発表資料の作成法やプレゼンテーションの手法を研究室の教員から指導、添削を受け、学位論文を完成させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 修士論文発表会のプレゼンテーションや質疑応答、学位論文評価基準に基づく学位論文の審査及び試験により総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 応用和漢医薬学関連領域の研究課題に取り組み、それを解決して社会に貢献したいという意欲を持っている。</p>

医薬理工学環 博士前期課程(認知・情動脳科学プログラム)の三つのポリシー 【修士(神経科学)】

<p>大学院の目的 (大学院学則 第2条)</p> <p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>	<p>研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的</p> <p>幅広い観点から認知・情動脳科学の専門知識を習得して研究を実践し、研究成果の発表、研究論文の作成を行った経験を活かし、製薬企業等で活躍できる専門的技術者や研究者及び教育関係で活躍できる研究者を養成することを目的とする。また、さらに博士課程に進学して脳神経科学分野の学際的研究者や企業や研究機関での高度な医薬品研究開発者として活躍ができる能力を身に付けた人材を養成する。</p>
---	--

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】</p> <p>認知・情動脳科学プログラムでは、幅広い知識を基盤とする高い専門性、総合的な判断力と、人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、認知・情動脳科学関連領域の研究者・教育者・技術者として学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる人材を育成することを目的としている。</p> <p>この目的に基づいて、原則2年以上在学して必要な研究指導を受け、「基盤的能力」、「専門的学識」、「倫理観」、「創造力」を身に付け、定められた教育課程で十分な学修成果を上げた者に修士(神経科学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】</p> <p>認知・情動脳科学プログラムでは、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる4つの能力を修得させるため、体系的な教育課程を編成する。</p> <p>医学、薬学、理工学、人文科学との協同体制を基盤とし、認知・情動脳科学を総合した特色ある教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】</p> <p>2年間の講義・演習・実験実習によるカリキュラムを実施する。講義は、大学院共通科目、医薬理工学環共通科目を履修する他、各分野が実施するものを学生が主体的に選択できるものとする。演習と実験実習は、研究室等で実施する。</p>	<p>【入学者受入れの方針】</p> <p>認知・情動脳科学プログラムでは、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に示す人材育成の目的に基づき、総合的な判断力を持った創造性豊かな研究者及び技術者を志し、認知・情動脳科学の基礎を学びたいという意欲を持つ者を受け入れる。</p> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】</p> <p>学部卒業見込みの者だけでなく、社会人等の多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また外国人留学生特別入試を実施する。</p> <p>一般入試 入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p> <p>外国人留学生特別入試 入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p>
<p>【学修成果の到達指標】</p>	<p>【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】</p>	<p>【求める資質・能力】</p>
<p>基盤的能力</p> <p>【学修成果】 研究分野における基本的な情報収集、論理的思考、情報発信、英語論文の基本的な理解と概説、研究内容について他者との議論ができる、などの研究を支える基盤的能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 幅広い科目の中から、共通科目や選択科目などを選択して履修し、認知・情動脳科学プログラムで定める修了要件に必要な授業科目を修得して単位を取得していること。</p>	<p>【学修内容】 学士課程までで学修、構築した基礎学力を基に、認知・情動脳科学プログラムで必要な科目の講義を実施する。</p> <p>【学修方法】 認知・情動脳科学プログラム独自のカリキュラムを必要単位数に応じて学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 各授業科目にて実施する試験、レポート、プレゼンテーション等により学修到達度を評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 認知・情動脳科学を中心とした神経科学分野の研究を遂行するにあたり、それを支える生命科学、工学、人文科学などの基礎的能力を持っている。 脳神経科学、認知科学、生命科学分野での専門的及び学際的な物事に深い興味を持ち、高度かつ最先端の研究を遂行する意欲がある。</p>
<p>専門的学識</p> <p>【学修成果】 専門分野の科目を履修し、知識や論文内容について理解し、他者と議論できる学識を身に付けている。専門研究分野の学会などにおいて、情報収集、議論、情報発信ができる専門的な学識を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 専門分野科目の必要単位を習得する。専門分野における研究課題の解決方法が実践できる。研究成果を専門分野の学会で発表し、議論できる。主指導教員以外の論文予備審査委員会を配し、修士課程の学位論文の新規性、学術的重要性、発展性等の観点から複数の委員による厳正な審査を経て認められた学位論文を提出すること。</p>	<p>【学修内容】 専門領域及びその周辺領域の科目を修了必要単位に応じて学修する。専門の知識や研究関連論文の学修。学会発表のための学修。</p> <p>【学修方法】 本プログラムの独自科目である情動神経科学序論や脳認知学序論等を学修する。配属研究室では、専門的学識、研究方法、研究成果発表について学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 学修到達目標により履修科目の評価を行う。また、所属研究室では、能動的学修(アクティブラーニング)に対して評価を行う。</p>	<p>【求める資質・能力】 自らの専門領域において、解決すべき課題を設定できる。 自らの専門性のみならず、その周辺領域にも強く関心を持っている。</p>
<p>倫理観</p> <p>【学修成果】 専門領域及びその周辺領域での研究不正について説明でき、研究倫理に関する基本的な規範意識を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 研究倫理教育科目を履修し、合格・修了していること。研究に必要な研修(臨床研究、遺伝子組換え実験、動物実験、放射線使用実験など)を受講し、生命倫理・研究者倫理を身に付け、社会規範に沿った適切な行動が取れること。</p>	<p>【学修内容】 研究分野における研究不正と研究倫理について共通科目並びにe-ラーニング、研究に必要な法律などに関する研究会などで学修する。</p> <p>【学修方法】 共通科目である「研究倫理」を学修する。e-ラーニングの研究倫理教育を受講する。研究に必要な研修(臨床研究、遺伝子組換え実験、動物実験、放射線使用実験など)を受講する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 学修態度、課題の成績等により、医薬理工学の各分野における安全・倫理に関する正しい知識と意識を評価する。e-ラーニングの研究倫理教育の合格・修了、及び研究に必要な研修の受講状況により評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 一般的な倫理観、道徳観を身に付けている。</p>
<p>創造力</p> <p>【学修成果】 認知・情動脳科学特別研究の成果に基づく学位論文を執筆できる能力を身に付けている。得られた研究成果やその価値を説明、議論できる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 特別研究の単位を修得し、修士課程の学位論文審査及び最終試験を受け、合格の判定を受けていること。</p>	<p>【学修内容】 専門領域及び周辺領域の知識と自身の研究課題を元に独創的な研究を進め、修士課程の学位論文や学会での研究成果の発表方法などを認知・情動脳科学特別研究で学修する。</p> <p>【学修方法】 認知・情動脳科学特別研究において、自身の研究課題解決のための先行文献の調査、研究計画の立案、研究仮説の実験等による検証を行い、創造力を養う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 研究の進捗状況、得られた研究成果の新規性や発展性を評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 自らの専門領域およびその周辺領域において、課題の設定や解決に向けて創造性豊かに取り組み、研究を通じて社会に貢献したいという意欲を持っている。</p>

医薬理工学環 博士前期課程(メディカルデザインプログラム)の三つのポリシー【修士(医工学)】

<p style="text-align: center;">大学院の目的 (大学院学則 第2条)</p> <p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>	<p style="text-align: center;">研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的</p> <p>学生に基礎から臨床・社会実装に至る幅広い観点から医学・福祉・看護学・理工学等の基礎的な考え方と知識、疾病の予防・病態説明・診断・治療・社会復帰に関する医工学の知識と研究手法を修得させ、実践的な研究活動と成果発表を体験学修させる。これらの教育を通じて先端的な医療・福祉機器・サービスの研究開発を担うことができる人材を育成するとともに、博士課程に進学して未来の医療・福祉・研究分野を創造し、デザインする研究者や開発者を目指してさらなる研鑽を積む人材を育成することを目的とする。</p>
---	---

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】 メディカルデザインプログラムでは、学生に基礎から臨床・社会実装に至る幅広い観点から医学・福祉・理工学等の基礎的な考え方と知識、疾病の予防・病態説明・診断・治療・社会復帰に関する医工学の知識と研究手法を修得させ、実践的な研究活動と成果発表を体験学修させる教育を通じて先端的な医療・福祉機器・サービスの研究開発を担うことができる人材を育成するとともに、博士課程に進学して未来の医療・福祉・研究分野を創造し、デザインする研究者や開発者を目指してさらなる研鑽を積む人材を育成することを目的としている。 この目的に基づいて、原則2年以上在学して必要な研究指導を受け、「基盤的能力」、「専門的学識」、「倫理観」、「創造力」を身に付け、定められた教育課程で十分な学修成果を上げた者に、修士(医工学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 医工学・福祉工学分野の高度専門職業人となるべく、医学・薬学・医療・福祉・理工学に関する幅広い知識を体系的に身に付けさせる教育課程を編成する。医薬系教員による授業を通して医学・薬学・医療・福祉の基礎を修得させ、理工系教員による授業を通して医工学・福祉工学の高度な専門的知識を修得させる。とくに医学・薬学・医療・福祉の基礎を学んだことがない理工学系学部出身学生に対しては、当該分野の基礎知識を医薬系学部・附属病院教職員の協力に基づく正規的教育課程として体系的に教授する。また、学生が所属する研究室における個人指導により医療・福祉機器・サービスの開発能力を修得させる。さらに、新規性と学術的重要性を含む学位論文の作成と発表を指導する。研究倫理・研究方法論の受講・修了を義務付ける。</p> <p>【教育課程実施方針】 学生は所属研究室を中心に能動的な学修を行う。1年次には、大学院共通科目、医薬理工学環共通科目を履修するとともに、幅広い必修及び選択の専門科目を履修させ、研究開発者としての倫理観、医学・薬学・医療・福祉・理工学の基礎、医工学・福祉工学の高度な専門的知識を修得させる。とくに医薬・薬学・医療・福祉の基礎を修得させるためには、医薬系学部・附属病院教職員がオムニバス形式で実施する必修科目(ファーマ・メディカルバイオ序論、総合医薬学、基礎臨床医科学概論)および選択科目(高度先進医療実践学序論、高度先進医療実践学特論、総合口腔科学)等を履修させる。2年次には学位論文の作成と発表を指導する。</p>	<p>【入学者受入れの方針】 ・医工学・福祉工学に興味を持ち、医学・薬学・医療・福祉及び理工学の基礎知識、先端知識を修得する意欲のある人材を求める。 ・医工学を修学した高度な専門職業人・研究者として、医療・福祉・健康分野、その他様々な分野で社会に貢献する意欲のある人材を求める。 ・医療・福祉・健康分野において高度かつ先端的な研究・開発を遂行するために必要な基礎的能力を持っている人材を求める。</p> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 学部卒業見込みの者だけでなく、社会人等の多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また外国人留学生特別入試を実施する。</p> <p style="text-align: center;">一般入試 入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p> <p style="text-align: center;">外国人留学生特別入試 入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p>
【学修成果の到達指標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p style="text-align: center;">基盤的能力</p> <p>【学修成果】 研究分野における基本的な情報収集、論理的思考、情報発信ができる。英語論文の基本的な読解と解説ができる。研究内容について他者と基本的な議論ができる。</p> <p>【到達指標】 幅広い専門領域の中から選択科目を履修する。研究室や履修科目において、研究分野の知識や論文内容について議論できる能力を身に付けている。専門分野の学会等において、情報収集、議論、情報発信ができる能力を身に付けている。 メディカルデザインプログラムで定める修了要件に必要な授業科目の単位を修得している。</p>	<p>【学修内容】 専門分野における知識の修得、英語論文の読解と紹介を行う。</p> <p>【学修方法】 能動的な学修による情報の収集、関連論文の収集と読解を学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 執筆した学位論文の内容ならびに口頭発表について、学位論文評価基準に基づいて評価する。 カリキュラムにおける必修科目の修得について、成績評価基準に基づいて評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 研究分野に対する知的興味を持ち、能動的に学修を行い、初歩的な英語論文読解力を有し、他者と論理的に議論することに関心を有している。</p>
<p style="text-align: center;">専門的学識</p> <p>【学修成果】 専門分野の知識や論文内容について議論できる基本的な能力を身に付けている。専門分野の学会等において、情報収集、議論、情報発信ができる基本的な能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 専門分野における研究課題の解決方法が実践できる。研究成果を専門分野の学会で発表できる。</p>	<p>【学修内容】 専門分野における課題解決のための知識の収集、調査や実験の実施を行う。</p> <p>【学修方法】 専門分野科目の履修、研究室での論文の紹介や研究結果の発表、専門学会での研究成果の発表と議論を学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 執筆した学位論文の内容ならびに口頭発表について、学位論文評価基準に基づいて評価する。 カリキュラムにおける選択科目等の専門分野科目の修得について、成績評価基準に基づいて評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 能動的に学修を行い、関連分野の専門知識に関心を有している。</p>
<p style="text-align: center;">倫理観</p> <p>【学修成果】 研究不正について説明でき、研究倫理に関する基本的な規範意識を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 研究倫理教育科目を履修し、合格している。医薬理工学環共通科目「生物医学倫理学」の単位を修得している。研究に必要な研修(臨床研究、遺伝子組換え実験、動物実験、放射線使用実験など)を受講している。</p>	<p>【学修内容】 研究不正の事例や研究不正防止方法について学ぶ。</p> <p>【学修方法】 研究倫理教育科目を履修する。研究に必要な研修(臨床研究、遺伝子組換え実験、動物実験、放射線使用実験など)を受講する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 執筆した学位論文の内容ならびに口頭発表について、学位論文評価基準に基づいて評価する。 大学院共通科目「研究倫理」、医薬理工学環共通科目「生物医学倫理学」の単位修得により評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 一般的な倫理観、道徳論を身に付けている。</p>
<p style="text-align: center;">創造力</p> <p>【学修成果】 自身の研究成果をもとに、次の研究課題の設定と解決方法の考察ができる。</p> <p>【到達指標】 学位論文を執筆できる能力を身に付けている。学会等で、議論できる。 修士学位論文審査及び最終試験を受け、合格の判定を受けている。</p>	<p>【学修内容】 学位論文の作成方法、学会等での発表準備方法を学修する。</p> <p>【学修方法】 能動的な学修による学位論文作成、学会発表の準備を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 執筆した学位論文の内容ならびに口頭発表について、学位論文評価基準に基づいて評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 幅広い知的興味をもち、創造性に対して関心を持っている。</p>